雜報

◉東園侍從一行

昨日午後五時五十五分を以て着盛なりたる東園侍從には昨紙掲載の如く昨日午前五時二十五分發の上り第一列車にて侍從隨行員二名及び川口警部隨行膽澤郡水澤町を經て被害地に向はれたるが侍從にい脚絆草鞋がけの輕裝にて出發せられたり天恩の優渥ある實よ感泣の外あらず罹災蒼生不幸の中よも雨露の光澤に咽ぶあるべし

◉三崎縣治局長

昨日午前七時三十五分一關出張の猪瀨縣屬より三崎縣治局長一行四名今より氣仙郡に向け出發との電報ありたり

◉三崎縣治局長一行　別項に記しある仝一行は縣治局長三崎龜之助縣治局府縣課長關谷鐵太郎仝市町村課員一山直祐仝府縣課員早川嘉儀の四氏及び本縣屬猪瀨傳一氏之に隨行せり

◉村上參事官美極縣屬　村上參事官にい美極縣屬を隨ひ先さに釜石を經て氣仙郡地方へ出張中の處昨日の第二列車にて歸廳

◉吉本技師の出張　第二土木監督署吉本技師は昨日の下り第二列車よて着盛九戸郡ゟ氣仙郡に至る沿海被害地土木損害の狀況視察として本日出發

◉藤根警部　仝部は巡査二名を隨ひ田老村へ昨日出張

◉日本衛生會員出張

貴縣下凶變負傷者見舞として本會員後藤敬臣ガーゼト白木綿を携帶し行くゝと大日本衛生會々頭土方伯ゟ本縣知事に宛て電報ありたり

◉工兵宮古に向ふ

昨紙掲載の第二師團工兵一小隊は昨日午前九時來盛一先づ肴町の杉本旅店に休憩の上直に宮古へ向け出發

地方

◉大日本赤十字社救護員一行九戸郡内被害地に向ふ　會長理學博士菊池大麓氏より本縣知事へ三陸地方地震海嘯實況調査の爲め本會囑托伊木常誠氏出張調査する旨通報ありたり

◉南北岩手紫波郡書記　藤田專治杉本貞吉の兩氏と事務補助として南北九戸郡役所へ向け昨日の下り一番列車にて出發又仝小屋敷美憲民之仝郡内及び當市内に於て募集せし人夫二百五十人を引率して本日北閉伊郡被害地へ向け出發

◉本縣赤十字社支部　より氣仙郡へ向け石炭酸白木綿リスリンの三種を昨日急送

◉福島赤十字社支部　に於ても本縣災民救護として不日醫員を派遣の由

◉三海嘯災民救助事務所

東京々橋區南鍋町一番地に三陸海嘯災民救助事務所を設置しある旨電報あり

◉凶變に對する本縣自由黨　今回の一大凶變に就ては岩手縣自由黨支部に於ても之に對する種々の劃策あり取り敢へず平田代議士は別項東園侍從一行と共に水澤より災害地巡視の途に就き谷河代議士い不日上京這般の問題に關し京地に於て熱心ある運動を爲すべきと云へり

◉吁我が水産業の前途を奈何せん

今回の大海嘯の爲め本縣沿海各被害地の慘況い日々の電文及び通信に依りて已よ世人の腦裡に刻銘せられ之は勿論あらんも尚は調査報告の詳あるに從ひ慘の慘たるもの彌々錐々其の甚しきを知る即ち漁船帆船五六千漁網漁具悉皆流失、船舶は造るべし漁具漁網亦製すべし惟り漁民の大半死亡を奈何せん

嗚呼我が縣水産業の前途、一念此に至れば悲絶愁絕の極吾人い實に何を云ふべきかを知らざる筆を投ぜんとす

◉山田及其附近續報　山田町に於ては去る十八日迄に發見しある屍体を埋葬しあるもの三百六十一名同日迄に埋葬濟了へたるもの五十八他は未だ發見せざる旨下捜索中尚ほ同町海嘯の起りたるは十五日午後八時に始まり同九時よりて其間潮流の范濫浸入前後三回に及び猛烈劇甚實に名狀の言葉もあり程なりしとぞ同郡舟越村の重もある流失家屋中にい村役場及書類（但し金庫は流失を免れたり）學校一棟寺院一棟にしく重ある死亡人員は收入役まて浩嘆せんのみ噫

◉百本技手の負傷に就て　別項六日本私立衛生會より派遣せられたる後藤敬臣氏午后六時着盛直に縣廳に出頭知事參事官に面會ガーゼー及び白木綿各百を寄送せり氏い昨日宮古へ向け出發の筈

◉停車場附近の混雜　前號記載せし如く一昨日の下り直行列車は伊達の郡山（前號白河とせしは誤りて）より機關に不良を生し爲めに八時間餘も遲れて午后六時頃當地に着車せし故東園侍從一行を始め南北九戸郡被害地へ向ふ筈の十字社員一行北海道行の相撲大戸平、谷の音、大硫、鵬辛等の一行其他乘客非常に多く當停車場附近の旅舍は孰れも一時混雜を極めたりと云ふ

◉六郡被害地畧圖　を掲げ被害表と參看せよ

◉南北岩手紫波郡書記

藤田專治杉本貞吉の兩氏と事務補助として南北九戸郡役所へ向け昨日の下り一番列車にて出發又仝小屋敷美憲民之仝郡内及び當市内に於て募集せし人夫二百五十人を引率して本日北閉伊郡被害地へ向け出發

◉本縣赤十字社支部　より氣仙郡へ向け石炭酸白木綿リスリンの三種を昨日急送

◉福島赤十字社支部　に於ても本縣災民救護として不日醫員を派遣の由

◉三海嘯災民救助事務所

東京々橋區南鍋町一番地に三陸海嘯災民救助事務所を設置しある旨電報あり

◉凶變に對する本縣自由黨　今回の一大凶變に就ては岩手縣自由黨支部に於ても之に對する種々の劃策あり取り敢へず平田代議士は別項東園侍從一行と共に水澤より災害地巡視の途に就き谷河代議士い不日上京這般の問題に關し京地に於て熱心ある運動を爲すべきと云へり

◉吁我が水産業の前途を奈何せん

今回の大海嘯の爲め本縣沿海各被害地の慘況い日々の電文及び通信に依りて已よ世人の腦裡に刻銘せられ之は勿論あらんも尚は調査報告の詳あるに從ひ慘の慘たるもの彌々錐々其の甚しきを知る即ち漁船帆船五六千漁網漁具悉皆流失、船舶は造るべし漁具漁網亦製すべし惟り漁民の大半死亡を奈何せん

嗚呼我が縣水産業の前途、一念此に至れば悲絶愁絕の極吾人い實に何を云ふべきかを知らざる筆を投ぜんとす

◉山田及其附近續報　山田町に於ては去る十八日迄に發見しある屍体を埋葬しあるもの三百六十一名同日迄に埋葬濟了へたるもの五十八他は未だ發見せざる旨下捜索中尚ほ同町海嘯の起りたるは十五日午後八時に始まり同九時よりて其間潮流の范濫浸入前後三回に及び猛烈劇甚實に名狀の言葉もあり程なりしとぞ同郡舟越村の重もある流失家屋中にい村役場及書類（但し金庫は流失を免れたり）學校一棟寺院一棟にしく重ある死亡人員は收入役まて浩嘆せんのみ噫

◉百本技手の負傷に就て　別項六日本私立衛生會より派遣せられたる後藤敬臣氏午后六時着盛直に縣廳に出頭知事參事官に面會ガーゼー及び白木綿各百を寄送せり氏い昨日宮古へ向け出發の筈

◉停車場附近の混雜　前號記載せし如く一昨日の下り直行列車は伊達の郡山（前號白河とせしは誤りて）より機關に不良を生し爲めに八時間餘も遲れて午后六時頃當地に着車せし故東園侍從一行を始め南北九戸郡被害地へ向ふ筈の十字社員一行北海道行の相撲大戸平、谷の音、大硫、鵬辛等の一行其他乘客非常に多く當停車場附近の旅舍は孰れも一時混雜を極めたりと云ふ

◉六郡被害地畧圖　を掲げ被害表と參看せよ

◉管内海嘯被害概數取調一覽表

（表中◦ハ町名　餘ハ村名）

本表は十九日午後六時迄に調査したるものにして尚ほ日々調査の結果は每號紙上に掲ぐべし

郡	町村名	人口	死亡	負傷者	健在戸數	流失家屋	半潰家屋	存在家屋
氣仙郡	◦高田	三五二人	一四人	三五三人	五五九戸	二三戸	一戸	五二四戸
	◦米崎	二四八九	二一	二四九	一〇二三	二一	一	一九八
	小友	二五九	二一	二四〇	三八一	二五〇	一六	二一二
	廣田	二〇三	九六	一〇七	四六九	一八〇	一六	一九二
	末崎	二九五	二三	一〇五	五〇一	一三〇	七	二三一
	大船渡	三〇〇五	八三	二二	八〇〇	二三〇	一	二三九
	赤崎	二九五	二一	二四〇	三八一	二三〇	一	二三九
	綾里	八〇三	三〇	一〇五	二四〇	二九〇	一三	一一一
	越喜來	三〇〇	五六	一〇七	二四〇	二九〇	一三	一一一
	吉濱	二四四九	八〇三	三五七	一五八九	二三八	一	二三五
	唐丹	三二八〇	九三八	四二八	一七四〇	二三八	一	二三五
閉伊郡	◦鵜住居	六五五五	一〇六九	八四六	二四七五	六五〇	一〇	六〇八
	大槌	六五五五	九〇〇	八四六	二四七五	六五〇	一〇	六〇八
南九戸郡	◦釜石	六五七五	一〇〇五	八四六	二四七五	六五〇	一〇	六〇八
東閉伊郡	船越	三九五	二五	一〇〇	七〇一	三五	一	二四七
	山田	三七四七	一〇〇	一〇〇	七〇一	三五	一	二四七
	大沢	三七四七	一〇〇	一〇〇	七〇一	三五	一	二四七
	重茂	二六八	一〇三	一〇三	七〇一	三五	一	二四七
	津鯨	一九九	一〇三	一〇三	七〇一	三五	一	二四七
	◦磯ケ崎	三四五	一〇三	一〇三	七〇一	三五	一	二四七
	◦鍬ケ崎	三四五	一〇三	一〇三	七〇一	三五	一	二四七
	◦宮古	五一五七	九八二	九八二	六六八	三五〇	一九	二四七
	◦崎田	二二四七	九八二	九八二	六六八	三五〇	一九	二四七
北閉伊郡	小本	二〇九〇	三六七	一〇四六	六六八	三五〇	一九	二四七
	田野畑	二〇三五	九八	四五七	二九六	一三〇	五	一一三
	普代	一〇五三	四五	二四五	一四二	六五	二	五七
南九戸郡	◦八戸	慈 四〇九二	一九七	一九七	一八五	一〇〇	一	五〇
	宇部	慈 二四九〇	一二五	一二五	一二五	一〇〇	一	五〇
	田	慈 二七一九	一二五	一二五	一二五	一〇〇	一	五〇
	野長	内 一四三	一	一	一	一	一	一
	計	一〇二三	四五二	四五二	二八六	一〇〇	一	五〇
北九戸郡	侍濱	一三九七	一五一	一五一	一八五	一〇〇	一	五〇
	中野	一九五	一〇	一〇	一〇	一〇	一	一
	種市	四八五	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一	一
	計	七七七	二五一	二五一	二八五	一〇〇	一	五〇
合計		一〇二三、三六五	六七九、四四八	四四八、七八九	二一六、五〇八	一九、一九	一三	一三五

人口戸數は警察署の戸口調査表による本表の被害數い時々增加を來たすにより日々變更あるべし

◉氣仙郡内田畑被害牛馬死亡表

別項にい被害地全部の統計表を掲げたれども尚ほ氣仙郡内牛馬死亡及田畑被害表を得たれば左に掲ぐ

町村名	牛馬死亡	田畑被害
末崎村	馬百頭	田十五丁餘畑十丁餘
小友村	二十頭	八十丁餘
米崎村	馬一頭	田十丁畑五丁
高田町		田畑二十四五丁歩
氣仙村		田畑三四十丁歩
赤崎村	四十頭	六十丁程
綾里村	百六十八頭	
越喜來村	百頭	田二十丁餘畑十丁餘

◉服部知事被害地に向ふ

種馬所技師　丹下　謙吉
種馬牧場技師　三浦　清吉

宮城種馬所衆務ヲ命ス
奥羽種馬牧場長心得ヲ命ス

◉叙任及辭令

宮城巖手兩縣へ被差遣
內務　內務書記官　久米　金彌
巖手縣へ出張ヲ命ス
巖手縣青森縣出張ヲ免ス
巖手縣警　巖手縣警部　小新　平七位　樋脇　盛苗
陞叙勳等官五等

種馬所技師　丹下　謙吉
會計　東園　基愛
治局長　三崎龜之助
巖手縣へ出張ヲ命ス

◉服部知事被害地に向ふ

種馬所技師　丹下　謙吉
種馬牧場技師　三浦　清吉

宮城種馬所衆務ヲ命ス
奥羽種馬牧場長心得ヲ命ス

◉服部知事被害地に向ふ

閉伊腹帶村に於て負傷せし同技手及車夫共に重傷特に車夫の如きは生命の程も覺束なき旨本紙前號に掲載せしが今聞く處に依れば百本氏は固より車夫も案外の輕傷よて目下宮古町に於て治療中ありとぞ

◉釜石實況目擊者の書面　釜石仝所の下た某氏より社員への消息は左の如し

「前畧」海面より七八丁も有之樂に帆走船一艘其近傍に帆走船一艘丈は現存し其他四五艘い破壞漁船數知れず押上けられあり寺の前に至れば海邊にて鮪大漁の時の如くに兄弟或い親子三人位並び居見運搬し來る者は姉死体と一所け抔と死者抔並べる事無數死者所生き居る者を見れど面部や頭傷多く滿足ある人は稀れに見受は警察署電信郵便局（電信局ゟにあり）なり町役場學校登記所東前、少々、澤村、四分の二、大只越なり齋鐵山局の建築にかゝる海面の棧橋も破壞引續きたる車道鑛山入口の間大は組建の儘押流され遙か山手の部は負傷巡査部長も宇嘉石ゟ出張し居たる由巡査古川某溺死一昨より發見せり破壞家屋の木材の下たや泥田の中体のある事夥敷候得共如何せん遠野町より消防夫引揚たるもの中にも憐れなるは釜石一の宿治なるもの逃出乘家屋と共に流れ拜殿跡の脇にて轉覆其內に二人盡死居候又乳兒抱愍ろにし二階轉覆せし內に死亡し居るも見受其慘狀實よ言語の外に有之候云

◉災害地出張者の便を圖る　稗貫郡花卷町は今回の災害地たるに通ずるの要路にして且つ人車之れあるも釜石街道工事竣工以來日尚は淺くの未だ沈着せざるより此等車夫人夫を徵發せんと欲するも容易に應せざるの傾きあり旁た以て動もすれば需用に應せざる恐れあるべき事にして吾人は我縣民の慈仁に訴へ之を表し其筋に本社に寄せ來るもの續々相次ぐことなるが是ふて義金を寄せ來るもの續々相次ぐことなるが是

◉感恩寺住職災害地へ向ふ　恩寺住職古川日進氏は本縣沿海各被害地を巡回せ

◉大海嘯大慘害義捐人名

盛岡市呉服町

一金壹圓　佐藤保治
一金拾錢　阿部波治
一金五拾錢　猪瀨つま
一金三拾錢　谷藤ゆま
一金拾錢　上川昌男
一金拾五錢　田大生
一金拾錢　石澤平
一金拾錢　川澤平
一金壹圓　傳一妻
一金壹圓　仝下婢
一金壹圓　紺屋町
一金壹圓　南岩手郡藪川村
一金壹圓　盛岡市仁王小路
一金壹圓　仝
一金壹圓　仝
一金壹圓　仝